



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2013年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫

「五〇年間、手を振り続けた女性」
 先ごろ、ブックオフで『地球の歩き方』シリーズ「アメリカ南部」版を手にした。数年前にシカゴからオハイオ州シンシナチにドライブしたことがあったが、その時の紅葉の鮮やかさが忘れられず、その近隣をさらに知りたいと思ったからだ。それを読んでいううちに右の表題が心に留まった。ご紹介しよう。
 ジョージア州サバンナにエメットという公園がある。十九世紀のアイランド人船長にちなんだ名前である。その公園の一角にウェイビング・ガール (Weaving Girl) の像がある。海で行方不明になった恋人の帰りを信じて、五〇年間、港に入るすべての船に手を振り続けたというが、真実は少々違うようだ。
 像のモデルになった女性フロレンスは、サバンナ沖のエルバ島で兄とふたりきりで暮らしていた。灯台守をしていた両親が亡くなったため、兄が十八歳にして、両親の後を継いだ。小島で兄妹だけの孤独な生活をしてきた少女はある日、島の近くを通る船に手を振った。すると、それに気付いた船長が汽笛で応えてくれた。これをきっかけに少女は大型客船にも手を振るようになった。あるとき、客船の乗客から彼女にお礼の手紙が届いた。長い海外生活から帰ってきたときに目にした彼女の姿は、まるで自分にお帰りなさいと言ってくれているようで感激した、というのだ。それからというもの、少女はタグボートだろうとタンカーだろうと、すべての船に手を振るようになった。どんな嵐の日でも、エルバ島を通るときには、ポーチで手を振る少女の姿があった。やがて船乗りの間で彼女が有名になると、「夜は君の姿が見えないので寂しい」という手紙が来るようになった。それから彼女はランタンを手に、夜もポーチに立つようになった。彼女は非常に耳がよく、嵐の夜でも近づいてくる船のエンジン音を聞き逃さなかったという。そして驚くべきことに、それが何と五〇年間も続いたのだ！ 一九三一年、兄は灯台守を引退、兄妹はサバンナ郊外へ引越し、ポーチから手を振る女性の姿は消えた。その数年後、サバンナの市民や船乗り数千人がエルバ島に集まり、フロレンスの七〇歳の誕生日を祝ったという。
 詩篇に「主は彼らをその望む港へ導かれた」(百七・30)とある。望む港とは主の先導して下さる永遠の港であり、主こそは私たちの人生の出航から帰港までのすべてを見守って下さる船長さんである。フロレンズがすべての船にただ手を振るだけで彼らの寂しさや不安を和らげ、励ましたとすれば、主の存在はいかばかり私たちの人生航路を力づけ、励まし、慰めることであろうか。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

